無線通信部門における今期研究会期（2016 – 2019）の研究体制

資料14－3

2019年9月現在

全権委員会議PP
最高意思決定機関

（4年毎に開催）

無線通信部門（ITU－R）

無線通信総会　RA
研究課題設定、勧告の承認等

（3～4年毎に開催）

世界無線通信会議
WRC
無線通信規則の改正等

地域無線通信会議
RRC
地域における無線通信に関する協定等の協議

会議準備会合
CPM
WRCの準備

研究体制　　研究委員会（SG）

SG1　周波数管理
議長：パスツーク（ロシア）
効率的な周波数管理の原則及び技術の開発、分配基準・方法、周波数監視技術、周波数利用の長期戦略等に関する研究

SG3　電波伝搬
議長：ウィルソン（オーストラリア）
無線通信システムの向上を目的とした、電離媒質及び非電離媒質中における電波伝搬並びに電波雑音特性に関する研究

SG4　衛星業務
議長：ホッファー（米国）　副議長：河合 宣行氏（KDDI）
衛星業務に関する軌道/スペクトラムの有効活用、システム等に関する研究

SG5　地上業務
議長：フェントン（英国）　副議長：新　博之氏（NTTドコモ）
移動業務、無線測位業務、アマチュア業務及び関連するシステムとネットワークに関する研究

SG6　放送業務
議長：西田　幸博氏（NHK）
一般大衆に向けて配信することを目的とし、映像、音声、マルチメディア及びデータサービスを含む無線通信による放送（地上系）に関する研究

SG7　科学業務
議長：ズゼック（米国）
時刻信号及び標準周波数報時、宇宙無線システム、地球探査衛星システム及び気象に関する事項、電波天文業務等に関する研究

RAG　無線通信アドバイザリグループ
議長：オバム（ケニア）
ITU－Rの作業の優先順位及び戦略等の見直し、作業計画の進捗状況の評価

※　下線は2期目